

令和3年10月

令和3年度全国学力・学習状況調査の分析まとめと対策

小牧市立北里中学校長 石川 学

4月に行われた本校の全国学力・学習状況調査の結果分析と対策を以下に記します。顕著な傾向のものを取り上げ、これからの学校及び家庭でのお子様の健やかな成長の一助となれればと願います。

学力調査国語

登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題や漢字・語句の意味など、言語の知識の問題は、全国や県より高い正答率を示しています。一方、話題に即して話す内容を考えて書いたり、意見文の校正や工夫について自分の考えを書いたりする問題では、全国や県に比べて正答率が低くなりました。

指導改善のポイント

正しい語句・意味を理解し、表現に即して文章の内容を読み取る指導を基本として、自分の考えを表現する活動を繰り返す中で、時として、批判的な視点を持つことも大切にしながら、根拠を明確にして意見が表現できる学習に引き続き取り組んでいきます。

学力調査数学

学習領域で見ると、「数と式」「図形」「資料の活用」の正答率が、全国や県より高く、「関数」の問題の正答率が低くなりました。特に『「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由をグラフの特徴を基に説明する』や『錯角が等しくなることについて根拠となる2直線の関係を、記号を用いて表す』で高い正答率でした。一方、『与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する』問題では、正答率が低く、未解答率も高くなりました。

指導改善のポイント

関数分野で与えられたグラフや表から、必要な情報を適切に取り、問題解決の方法を数学的に説明する力を高める指導をしていきます。資料活用の分野では、ヒストグラムや相対度数の必要性や意味を理解し、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力を高める指導をしていきます。また、自身の解答が真に正しいのかを吟味する習慣づけを強化していきます。

「学び合い」の授業を継続し、一人一人の学びを保障するとともに、学び方を学ぶことができるような授業作りに取り組んでいます。また、タブレット端末やICT機器を効果的に活用し、主体的に学びに取り組む態度の育成に努めます。

学習状況調査

- ① 「自分にはよいところがあると思いますか」 → 「ある」 = 34.5%
「将来の夢や目標を持っていますか」 → 「持っている」 = 41.4%
→ 一昨年まではともに県や全国より低かったが、ともに10%程度高くなった。「どちらかといえばある(持っている)」と答えた生徒は、ともに約80%と自分に自信がもち、将来への展望を持つ生徒が多いと言えます。
- ② 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」
→ 「している」 = 27%、「どちらかといえばしている」 = 41%
「自分でやると決めたことは自分でやると決めたことはやり遂げるようにしていますか」
→ 「している」 = 37%、「どちらかといえばしている」 = 49%
→ いずれも全国や県の平均よりも高く積極的に行動できる生徒が多いと言えます。
- ③ 「人が困っているときは、進んで助けていますか」 → 「はい」 = 57%
→ 全国や県より10%以上高く、「どちらかといえば」を加えると90%を超えています。
「人の役に立つ人間になりたい」と答えている生徒も77%に上り、他人のために行動できる心優しい生徒が多いと言えます。
- ④ 「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」
→ 2時間以上と答えた生徒の割合が38%と県(50%)や全国(54%)に比べて低く、休日の学習時間が少ない傾向にあります。
- ⑤ 「普段、1日あたりどれくらいテレビゲーム(PC, スマホ等を含む)をしますか」
→ 2時間以上と答えた生徒の割合が68%と県(61%)や国(57%)に比べて高く、4時間以上している生徒も25%と大変多いと言えます。
- ⑥ 「新聞を読んでいますか」 → 「毎日、週に1~3回」 = 10%、「月に1~3回」 = 20%
→ 全国や県よりは、割合が高いものの新聞を読む生徒が少ないと言えます。新聞を読む回数が多いほど平均正答率が高くなるという相関関係が示されていることから、新聞に親しむ機会を多くしていくよう指導していきます。
- ⑦ 授業で友達と話し合う活動で、
「友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」 → 「できた」 = 78%
「自分の考えを深めたり、ひろげたりすることができましたか」 → 「できた」 = 38%
「友達の考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えましたか」 → 「伝えた」 = 46%
→ いずれの項目も国や県よりも高くなっています。学級の話し合い活動などを通して、人間関係を豊かにするとともに、自分を見つめたり、集団生活をよりよくすることを考えたりすることで、自信を持って他者と関わるができるように指導しています。活動のねらいを理解して話し合い活動に参加できている生徒が多いと考えられます。
- ⑧ 新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中について
「家で規則正しい生活を送っていましたか」 → 「送っていた」 = 42%
「勉強について不安を感じていましたか」 → 「感じていた」 = 66%
「家で計画的に学習を続けることができましたか」 → 「できた」 = 29%
→ 休校期間が、生徒の生活に影響を与え、不安やストレスを感じていた生徒が多かったことがわかります。細心の注意を払って新型コロナの感染予防に取り組むとともに、生徒の心のケアにも努めていきます。